

## 「ボストン日本語学校」

PTA会長 五味露敏（ろびん）

今年の冬は寒波、大雪とでちょっと大変でしたが、なぜかボストン日本語学校がある土曜日に重なる降雪がほとんどなく、長い距離を運転する親としては安心して、始業時間が少し過ぎたあたりに到着することができました。

息子は、寒くて春とはまだ言えない4月から4年生。幼稚部年少からお世話になり始めての6年があったという間に過ぎ去ってしまっています。

アメリカにいながらにして、いかに日本語、あるいは日本の文化を次の世代に伝えて行くかは日本語学校に通う保護者全員に共通する課題・関心事・心配事かと思います。うちも息子が生まれてから、家では何語を話すべきか（日本語）いつからアメリカの現地校に入れるべきか（プリスクールを飛ばしてキンダーガーデンから）、いろいろと悩みました。

あまり悩まなかったのはボストン日本語学校に通わせることでした。妻がニューヨーク近辺の補習校に通った際の経験、短いながらもアーモスト日本語補習校で教師をしたこと。私が幼少の頃、日本語が全く理解できないで泣きながら勉強させられたことなど、親主体の判断要素が多くありました。今就職している会社の先輩諸氏が学校の設立に貢献したこともあります。ただ、やはり一番の理由は息子と同じ経験をし、国際社会に出て行くであろう同年代の生徒達の存在です。

週一回ながらも、同じ屋根の下で、日本語や日本文化の勉強をする息子の同窓生は将来的にはアメリカや日本で活躍することと思います。そうした中で、いずれは来るかもしれない Identity Crisis や、アメリカで育つ日本人としての特有の悩みなどを共有し、相談できる友人がいれば、息子も心の寄り所ができるのではと期待しています。



ボストン日本語学校は500世帯、700人以上の生徒が通う、全米でも大規模な補習校に発展しています。語学以外に、運動会や文化祭等の日本文化を体験できる素晴らしい環境にあります。学校のスタッフ、先生、保護者等が一体となり運営を支えています。今後も保護者の立場から、日本語学校をより良いものにして行きたいと思っています。よろしく御願いたします。